

正しい健康情報。楽しい気分転換。患者さんのカラダとココロに直接お届けするダイレクト・マガジンです。

無料

か karada ら cocoro こころ

2016

45

号

わたしの
気分転換
③7

持田香織さん

“過去の私”にとらわれず
いまできることをやればいい



在宅ケアほっとルーム⑮

「入浴を嫌がる場合の対処法」

よくわかる医療最前線④

「乳がんの最新治療

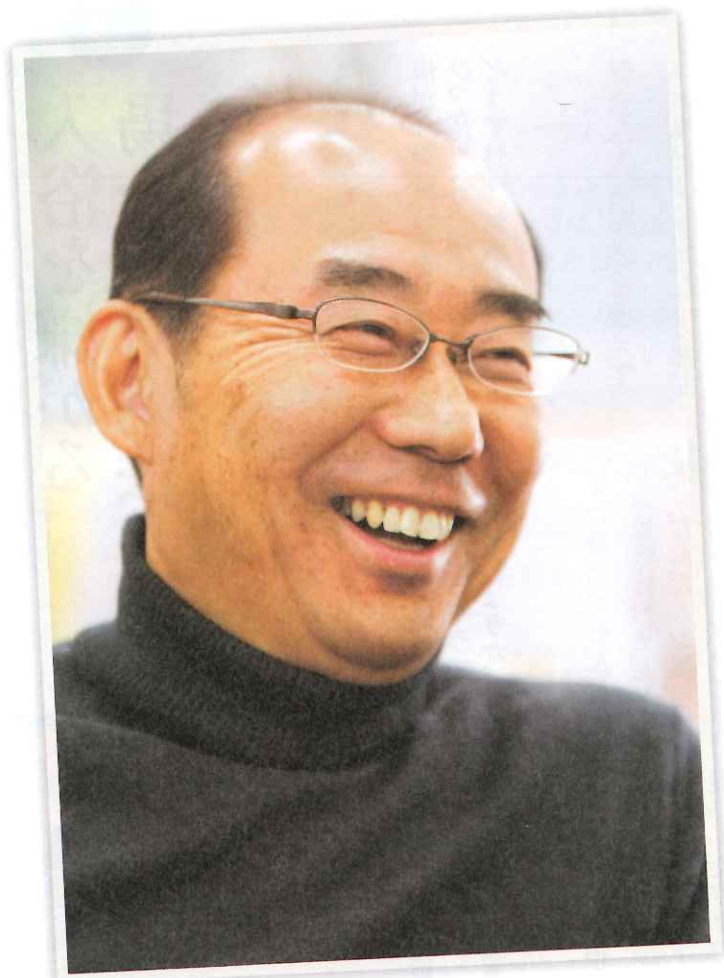
その3 Q&A特集」

病院生活の基礎知識④
宮子あずささんに聞く！

「医師とのコミュニケーション術」

からころなんでも相談室④

「老眼とのつきあい方」



自宅で最期を迎えたい……。 その「ささやかな願い」をかなえるために

— 太田秀樹さん — 医療法人アスムス理事長

病氣と向き合っている方や乗り越えてきた方、医療現場で活躍されている方を紹介します。今回は、25年間在宅医療に取り組む太田秀樹さんです。

おおた・ひでき

1953年、奈良県生まれ。自治医科大学整形外科医局長・専任講師を経て、1992年、栃木県小山市に「おやま城北クリニック」を開業、在宅医療を始める。現在、在宅医療支援診療所、訪問看護ステーション、老人保健施設等を運営する「医療法人アスムス」の理事長。全国在宅療養支援診療所連絡会事務局長。著書に『治す医療から、支える医療へ』（共著／木星舎）、『家で天寿を全うする方法』（さくら舎）など。

太田秀樹さんが栃木県小山市で在宅医療を始めたのは、1992年のことだ。それまでは大病院の整形外科医。

父は開業医だった。「町医者より大病院のほうがいい医療ができる」と思っていた。

整形外科の医局長だったとき、たまたま、ある身体障害者グループの海外旅行に付き添った。そのとき初めて車椅子を押して、驚いた。

病院を一步出れば、道は凸凹。車椅子の人たちはかくも大変な思いをしているのか。そんなことも知らずに整形外科医をしていたのか……と。

障害を抱える人たちが、医者に不信感を募らせていることも、知った。

「邪魔だから診療所に車椅子

で来るな」と言われた……。脳性麻痺の患者さんが「何を言っているのかわからん」と医者に言われた……。

「通院することも大変な人たちがいる。そういう人たちにこそ医療が必要なのに……。……医者が患者のいる場所へ行ったほうがいいじゃないか」

太田さんは大病院での出世コースを降りて、手探りで在宅医療を始めた。

「在宅医療」という言葉すら珍しい時代で、こんな陰口も叩かれた。

「往診する先生なんて腕が悪くないじゃないの？」

**だれにとつての
延命治療なのか……**

これまで数百人のお年寄りの晩年を診てきた。高齢者の生活習慣病や老化による諸症状は、**「治る病氣」**ではない。……わたしはもう十分生きたから、いつ死んでもいいよ。つらい検査や入院をするよりは、家にいたいよ……。

そう話す人も少なくなない。



趣味はジャズ。仲間とバンドを組んでライブを開くことも。太田さんはベーシスト。



「医療法人アスミス」。高齢者ケアの中核をなす地域包括支援センターの“民間版”をめざす。介護や医療についてだれでも相談できる「なんでも相談室」もある。
〒323-0023 栃木県小山市中央町2-10-18 グリーンミュキ小山101
☎0285-38-6361 JR小山駅から徒歩5分

「とつてもささやかだけれど、切実な願いだと思うんです。でも、いざという時になると、家族の方が救急車を呼んで、病院に連れて行く。でもね、たとえ命が助かっても、その後、病院のベッドの上で人工呼吸器をつけて、チューブから栄養を送られて生きることになる。それが、はたして幸せなのかどうか」
家にいたい……と泣きながら訴えて、それでも救急車で病院に運ばれていったおじいちゃん、3日後に亡くなる。そんなケースをいくつも見てきた。

日本人の約8割が、自宅での最期を望んでいるといわれる。しかし現実には、病院で亡くなる人が8割にのぼる。
じつは、太田さん自身にも、苦い経験がある。高齢の父が脳梗塞で倒れたときのことだ。病院に駆けつけたとき、父に意識はなく、たくさんのチューブにつながれていた。
直感的に「もうダメだ」とわかったが、太田さんはとつ

さにこう口走っていた。
「人工呼吸器をつけてくださいッ」
父は意識を回復することなく、1か月後に亡くなった。
ふだん延命治療に疑問を感じていながら、いざという場面に自分が立つと、……言葉がなかった。家族のことになると医師でもクールでいられなくなることを、思い知った。
「だから、何が何でも連れて行くな……とは言いませぬ。ただ、父の死に立ち会って、ぼく自身は変わりました。延命医療について逡巡ちゆうそんされているご家族の方には、自信を持って、もう何もしない方がいいですよ」と言えるようになりました」

「先生、私の死亡診断書、書いてくださいね」

「先生、私の死亡診断書、書いてくださいね」
と、答える。
人はいつか死ぬ。最期まで自分らしく生きたい。
そのささやかだけど、とても大切な思いを支える町医者でありたい。
先生の願いだ。

「先生、私の死亡診断書、書いてくださいね」
と、答える。
人はいつか死ぬ。最期まで自分らしく生きたい。
そのささやかだけど、とても大切な思いを支える町医者でありたい。
先生の願いだ。